

環境影響評価審査会総会 会議録

- 1 日時 : 令和2年12月23日(水) 14時00分～16:00
- 2 場所 : WEB会議(兵庫県庁西館4階 Room55)
- 3 議題 :
 - (1) 豊岡都市計画道路1. 4. 3号北近畿豊岡自動車道北線に係る事後監視調査結果報告書について
 - (2) 三菱パワー株式会社高砂工場実証設備複合サイクル発電所更新計画に係る事後監視調査結果報告書について
 - (3) 神戸発電所3・4号機設置計画に係る事後監視調査結果報告書について
- 4 報告事項 : 環境影響評価対象事業(最終処分場)の規模について(答申)
- 5 出席委員 : 服部会長、遠藤委員、大迫委員、沖村委員、小谷委員、上甫木委員、川井委員、近藤委員、島委員、住友委員、中畷委員、中野委員、西村委員、花田委員、藤川委員、増沢委員、三橋委員、山下委員、横山委員
- 6 兵庫県 : 環境管理局长、環境影響評価室長、審査情報班長他班員2名
水大気課、温暖化対策課、環境整備課、自然環境課、ビジョン課、道路街路課、阪神北県民局、但馬県民局
- 7 配布資料 :
 - 資料1 : 豊岡都市計画道路1. 4. 3号北近畿豊岡自動車道北線 説明資料
 - 資料2 : 豊岡都市計画道路1. 4. 3号北近畿豊岡自動車道北線 事後監視調査報告書
 - 資料3 : 三菱パワー株式会社高砂工場実証設備複合サイクル発電所更新計画 説明資料
 - 資料4 : 三菱パワー株式会社高砂工場実証設備複合サイクル発電所更新計画 事後監視調査報告書
 - 資料5 : 神戸発電所3・4号機設置計画 事後監視調査報告書参考資料 : 環境影響評価対象事業(最終処分場)の規模について(答申)
- 8 議事概要 :
 - (1) 豊岡都市計画道路1. 4. 3号北近畿豊岡自動車道北線に係る事後監視調査結果報告書について

<事業者が資料1、資料2により事後監視調査結果について報告。>

[質疑]

(委員)

P18の外来種のモウソウチクを除去した後はどのように管理されるのか。また、

どのような植生を目標としている。

(事業者)

道路をつくることを用地買収して除去している。除去した場所に道路をつくり、舗装する。法面についても植生工を実施するので、モウソウチクが再度生えてくることはないと考えている。

(委員)

モウソウチク除去後、そこは草地に変えるということか。

(事業者)

そうです。

(委員)

実際除去する場所について、工事で植生が除去されることになるので、あえて除去という形で書いていただく必要はないかと思う。その後、法面のように植生管理されるのであれば、区別していただいて書いてもらえれば良いと思う。

(委員)

工事でもともと無くなったものだから外来種対策というものではない。別の植生に変えるところは、その植生をどのように変えるのかを言っていただきたい。

(委員)

P22 の結果について、環境影響評価時の調査方法と、その後の工事前、工事中の調査方法は同じであるか。

(事業者)

調査方法は同じである。年によって調査量は若干ばらつきがあるが、概ね同じ程度調査をしている。

(委員)

環境影響評価時は営巣の頻度が高くなかったように思えるが、H29 以降は営巣しようとしている個体が割と多い感じがするが、実際に頻度が高まっている感じはあるのか。

(事業者)

この表で見ると少し多くなっているように見えるが、今後の調査の中で、それも踏まえて監視していきたい。

(委員)

この件について広域的にご存じの事があれば委員に教えていただきたいが、全体的に増加傾向にあるのか。もし増加傾向にあれば、数だけ見ても分かるのかが気になっている。

(委員)

今後調査がされるという事ですが、あまり数値は減ってはいない状況である。今回2 km の範囲内に絞ったので、猛禽類の営巣地の範囲に入る可能性は低くなる。もう少し北の周辺を含めて話を聞いており、その範囲内では大きく数は変化していない。ハチクマが全国的に増えつつある状況に比べると、あまり増えてはいないが、今のところ目に見える影響は出ていないと判断している。

(委員)

植物のタニヘゴの調査については、一部調子が悪いものがあったが順調に育っているようで、特に問題ないと思っている。

(2) 三菱パワー株式会社高砂工場実証設備複合サイクル発電所更新計画に係る事後監視調査結果報告書について

<事業者が資料3、資料4により事後監視調査結果について報告。>

[質疑]

(委員)

鳥の結果について、2013年、2017年度と比較して変化がない結果ですが、こういう環境であるとコアジサシも含め更新する前でも繁殖は難しかったであろうと思われるので、改変、更新が行われても同じような状況であることは致し方無い状況と思う。重要な鳥類として3種あげているが、気になったのはP3の航空写真で、以前からあった防風林について手前の方は事業終了でも同じ場所にあるが、向かって右手の防風林は無くなったのか。

(事業者)

写真の赤枠の下半分が第1号発電設備、上半分が第2号発電設備となり、第1号発電設備の緑の部分である緑化マウンドはそのまま残っている。第2号発電設備の周りにも緑化マウンドで囲っており緑を植えているが、まだ育っていないため土が見えた状態になっている。何年か経つと第1号設備のような緑が見えてくるようになる。

(委員)

重要な種では無かったのだろうが、少しでも緑地があると、渡り鳥の寄港地になるので、緑地に関してはきちんと管理して大事にして頂きたい。

(委員)

資料4の報告書のP13とP16について、評価書の予測結果は実際に音が出ている分と現況値と合成して評価して出しているのか。現況値が高いところなので、予測値が低くこのような結果になる認識で良いか。

(事業者)

はい。

(委員)

資料3のP9の仮設防音壁の設置状況の写真があるが、どこの音を消すために壁がつけられたのか。

(事業者)

防音壁の後ろの緑化マウンドが立ち上がっているが、緑化マウンドが立ち上がる前に地上付近で工事等を行っており、その地上付近の工事の防音のために設置

したものである。

(委員)

仮設なので、工事が無くなれば撤去するのか。

(事業者)

撤去します。

(委員)

資料3のP13の廃プラスチック類の廃棄物発生量がかなり多くなっており、資料4のP27の注釈を見ると「海外調達品を多用したため」とあるが、海外調達品だとプラスチックが多く使われているのか。

(事業者)

海外から調達すると、海を輸送する道中に製品に傷がつかないように養生シートをかなり強固にして輸送しているため、それを回収すると大量になってしまった。

(委員)

ミゾコウジュとミコシガヤの移植には成功しているようだが、ミゾコウジュは一年草で、種をまかないと広がらないので、種を取っては蒔いて栽培したのか。

(事業者)

自生しているものになる。

(委員)

勝手に種が落ちて広がったということか。

(事業者)

そうです。

(委員)

多年生の場合そのまま持続するが、一年生の場合毎年種から更新する必要があるので管理が大変だと思うが、現在上手くいっているので、このままの状況が続いていくと思われる。

(3) 神戸発電所3・4号機設置計画に係る事後監視調査結果報告書について

<事業者が資料3、資料4により事後監視調査結果について報告。>

[質疑]

(委員)

P25の建設機械(騒音)の調査結果の中で、「周辺5,6の測定結果は評価書の予測結果を上回っているが、現地調査の測定状況より建設機械の稼働に伴う騒音は聞き取れなかった」と記載があるが、聞き取れなかったのは、人間の耳で聞き取れなかったという事か。同じような表現がP29にもあるが、このような表現方法が調査結果報告書で使われるものなのか。

(委員)

他のところは予測値を出しているから、聞き取れなかったとの表現で済ませずに、予測できないデシベルだったと書けば良かったのではないかと。現況値が高いから聞こえなかったのだと思うが、その辺を詳しく書けば良いと思う。

(事業者)

ご指摘ありがとうございます。ご理解いただけるような記載にしていきたい。

(委員)

聞き取れなかったというのは、聞く人によって変わってくるので、測定値で評価すべきだと思う。P24 に工事関係車両の騒音を記載しているが、表 4.2-2 の工事関係車両の交通量は、予測時と比べて調査日の交通量は半分くらいになっているが、予測は過大評価であったという事か。

(事業者)

予測の際に、小型車、大型車ともに最大になるよう、安全側になるように見積もっていたので、実績が低めに推移している状況であった。

(委員)

予測と比べて半分くらいの交通量で、工事の進捗に問題はないのか懸念される。また、交通量が予測に対して大幅に少ないにも関わらず、騒音の測定結果は予測結果とほとんど変わっていない事から、交通量が予測通りであったならば、騒音、振動結果が予測を超えていたのではないかとと思うが、どのように考えられるか。

(事業者)

仮に工事関係車両が増えた場合ですが、表 4.2-2 に括弧書きでパーセントを記載しているが、もともと引数比率が小さい事から実際の寄与は 0.2 デシベルくらいであるため、評価書予測時の交通量であっても予測を超えるほどではないと思われる。

(委員)

P18 の工事関係車両の交通量等について、調査時の測定結果は評価書の予測時の交通量と比べて半分くらいであるが、予測時の交通量と同程度の日を選んで調査をしないのか。予測時の交通量と同程度の日を選んで調査を行えば、測定結果は大きくなるのではないかと。

(事業者)

工事中の車両を減らすよう取り組んだ事で、車両数を日々平準化することや各業者の車両台数を減らすよう調整したことにより、車両台数は予測時より減ったのではないかと考えている。また、車両数が他に多い日があるのではないかとのご指摘だと思うが、各業者から出てきた車両台数に基づいて、最大となると思われる月に調査している。必ずしも調査日が最大になるかについては少しずれがあると思うが、日々の台数も把握しており、そのずれが測定結果を押し上げてしまうほど差異のあるものではない。

(委員)

報告書の書き方として、この日に実施したと書いてしまうと、この日が最大の日かどうか分からない。この車両台数が平均的な値だと分かるように書き方を工

夫して欲しい。

(事業者)

分かりました。

(委員)

P36 の図 4.4-1 水質の調査地点の図が入っていなかった。また、P37 の調査地点の差(内側－外側)が参考値の 10 mg/L 以下であると記載されている。内側と外側の距離が近いと同じような濃度になると思うが、内側と外側の距離の差が約 100m であり、近い距離だと調査の意味があまり無いと思うが、どのように考えているか。

(事業者)

神戸市への報告の際も同じ指摘と頂いているところであり、実際に 100m 程度で比較できるかという事については、配慮が足りていなかったと考えるところもある。結果としては、5月～6月くらいの夏場の公共用水域の測定結果等を確認して絶対値が大きくなり問題はないだろうということを確認している。調査の方法と報告書の内容はもう少し検討すべきだったと考えている。

(委員)

報告書の説明として 10 mg/L 以下であるので問題はないという結論の出し方は少し配慮してもらえればと思う。

(事業者)

説明の中で付け加えた形であったが、絶対値が 1～6mg/L 程度であり、青線で示している工事実施区域の外側には濁りの影響は及んでいないと考えている。

(委員)

最後に、本日は 3 例報告頂いたが、他の 2 例は報告書以外に説明資料があり、それを元に説明いただいた。この報告には時間がかかっていたので、報告の仕方も検討いただければと思う。内容についてもいくつか委員から質問があったので、それに合わせて修正を加えていただければと思う。

(4) 報告事項

質疑なし

以上